

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	アップ↑るTREE		
○保護者評価実施期間	2025年 10月 20日		～ 2025年 11月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数) 19
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		～ 2025年 12月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 1月 19日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	遊びや活動を通してコミュニケーション能力を高めたり、ルールを覚えて社会性を身につけたりすることに重点を置いている。	職員との一対一の関わりから始め、友だちに興味をもって相互的な会話や遊びができるようになるまでを支援の一つとしている。失敗してもやり直せる環境を作り、失敗と成功を繰り返しながら最後までやり遂げる力や『自分でできた』という自信を育てている。	定期的なアセスメントを行い子どもたちの成長度合いを把握し、職員間で共有している。コミュニケーション力を高めるための基礎となる言語能力の獲得についても、発達特性に合わせた方法を取っている。
2	保育士、児童指導員、公認心理師など様々な資格を持った職員により、支援方法について検討している。	朝ミーティング、ランチミーティング、終業後ミーティングを行うことで、計画・実行・振り返りを繰り返し、共通理解をもって支援方法の試行錯誤をしている。	研修や学会に参加することで、各自の経験則だけでなく、新しい知識や支援方法を取り入れていく。
3	保護者様との良好な関係構築に力を入れている。	なるべく保護者様と対面して療育時の様子についてお話しさせていただくことで、顔の見える関係性と信頼関係を築くことができるよう努力している。	直接お話することが難しい場合の連絡手段や関係構築の方法を考えていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	就学時の移行について、情報の共有に差がある。	就学後も保育所等訪問支援を利用される場合は密な連携が可能であるが、保育所等訪問支援を利用されていない場合は状況に合わせた対応になっている。	保育所等訪問支援を利用されていない場合でも保護者のご希望によって、書面での情報共有や支援者会議への参加など、連携方法を考えていく。
2	保護者様同士の交流ができる機会が少ない。	親子遠足を毎年企画しているが、保護者様のみ参加できる場をまだ設けられていない。	交流についての企画検討を行っていく。
3	コロナ禍以降地域での活動が縮小している。	地域との交流がもともと少ない。	新たな交流方法を考えていく。